

《導入事例のご紹介》

鶯宿温泉 長栄館 様

これからは勤怠の「見える化」が必ず必要になる。
そう確信しているので匠システムの『TAKU☆
見e r u』を導入しました。透明性の確保、業務
効率化などすでにプラス効果が出始めています。



鶯宿温泉長栄館 照井貴博社長

勤怠管理システム『TAKU☆見e r u』を導入された経緯、効果について鶯宿温泉 長栄館社長 照井貴博様にお話しを伺いました。

- ・『TAKU☆見e r u』導入から半年。
- ・現在従業員40名。出退勤の打刻用ipadを事務所、調理場、仲居控室の3カ所に設置。
- ・導入前はタイムカード方式で管理し、月末に担当者が集計して給与計算まで行っていた。
- ・勤務表の予定は各部署にて2、3週間前に入力し作成。

【導入の目的】～従業員の勤務実態の見える化が必要！～

一 見える化という言葉テーマに『TAKU☆見e r u』を導入した目的について教えてください。

導入前は従業員一人一人がタイムカードに打刻した出退勤データを担当者が全て手作業で集計していました。

作業時間が膨大だったため、とにかく効率の悪さを感じていましたし、その上計算間違いなどの人的ミスも起こり得るというリスクも感じていました。

従業員の給与に直接関わる出退勤データの集計作業はとても大事な部分ですが、その集計作業を人の手を介して行うため、どうしても透明性が担保できないという思いがありました。そのことが一番大きかったかもしれません。

「見える化」という言葉をテーマに掲げ、従業員は自分の勤務実績がいつでも見える、会社側も“従業員の頑張り”がいつでも見えるということを実現できるシステムが必要でした。



